

令和5年10月31日発行

# 栗原普及センターだより 「くりはら」 155号

## 収穫期を迎えた シャインマスカット

実りの秋です。  
栗原管内でも、シャインマスカットが栽培されており、この秋も実りを向かえました。  
栽培の始まりは、何と水稲の「育苗ハウス」へ数本の苗木を植えたこと。  
生産者が真摯に向き合って、適切な栽培管理を行ったことで、樹は応えてくれました。  
この姿を自分のハウスだと想像して、この秋に苗木を購入し、植えてみませんか。  
普及センターでは、定期的に栽培研修会を実施し、栽培管理を支援します。



## 令和5年産水稲の生育経過について

田植盛期は5月13日で平年（過去5か年平均）と比べ1日早くなりました。

田植え後の5月中～下旬に気温が低い日もあったことから、活着や初期生育が遅れるほ場もありました。6月に入って、気温が高く、日照時間が多い日が続く、遅れていた生育は、平年並からやや少ない程度まで回復しました。

7月から出穂まで気温が高く、日照時間が多い日が続く、出穂期は7月30日で、平年（過去5か年平均）と比べ3日早くなりました。

出穂後も気温が高く、日照時間が多い日が続く、登熟が早くなりました。出穂後の積算気温による刈取適期（ひとめぼれでは日平均気温の積

算温度が960～1,100℃）が、7月下旬から8月上旬に出穂したほ場では、9月上旬に刈り取り適期を迎え、去年よりも早くなりました。



【水稲生育調査の様子】

## 直播たまねぎ栽培への取組が始まっています！

栗原管内において、今年度から直播たまねぎ栽培への取組が始まっており、9月上旬に栗駒と若柳の2箇所で播種が行われました。播種時にはRTKシステム搭載のトラクターが使用され、自動操舵により正確な播種作業が行われました。9月末時点での発芽・生育は概ね順調であり、草丈10cmほどに成長しています。

直播栽培は従来の移植栽培と比較して、育苗に係る労力が削減できるメリットがあり、機械化一貫体系により大規模な作付け拡大が期待されます。一方で、栗原地域における直播たまねぎ栽培は前例がなく、播種時期や除草体系などは今後検討の余地があります。土地利用型園芸

作物の振興を目指し、普及センターでは直播たまねぎ栽培の確立に向けて、引き続き支援してまいります。



【RTK搭載トラクタによる播種作業の様子】

## “新たな園芸振興の芽”枝もの用クロマツをご紹介します！

本県では、正月飾りに欠かせない枝もの用クロマツの産地育成を図っています。現在では、生産者らによる県広域の研究会を立ち上げ、南三陸町の農業法人を中心に現地検討会などの活動を行っています。

枝もの用クロマツは、大規模産地の供給減少などを背景に、新たな産地開拓が求められており、栽培期間が4年程度かかるもののコメや露地野菜に比べて高収益が見込まれています。

栗原管内においては、4名の生産者が県広域の研究会に参加しています。普及センターでは、関係機関と連携しながら、新たな園芸振興の芽

として、管内のクロマツ生産拡大に向け支援を行ってまいります。



【生育中のクロマツの様子】

## 栗原市農業女性のつどいを開催しました！

7月25日(火)に、県栗原合同庁舎会議室で、令和5年度くりはら女性農業者キャリアアップ講座「栗原市農業女性のつどい」を開催し、35名が参加しました。

本講座は、農業でイチゴを作りながらマジシャンとして活躍し、その活動をイチゴの販売にも繋げている渡邊一弘氏を講師に招き、御講演頂きました。講演では、「イチゴ農家もう一つの顔」と題して、農業とマジシャンの“二刀流”を両立するまでの努力や、出演依頼された方に採れたての新鮮なイチゴを販売する取組などをお話いただきました。その後に、マジックも披露いただき、参

加者からは大きな歓声が上がりました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じ、女性農業者の資質向上やネットワークの形成を支援していきます。



【多くの方々にご参加いただきました】

## 新たに認定された青年農業士を紹介します！



### 佐々木慶英さん (栗原市高清水)

栗原地区4Hクラブに所属し、地区会長のほか、宮城県農村青少年クラブ連絡協議会事務局長などを歴任するなど青年農業者のリーダーとして活躍されてきました。近年では、自ら認定農業者となり、親から経営継承するなど、地域農業を担う若い“人財”として注目されています。



### 酒井 宏和さん (栗原市志波姫)

地域の農事組合法人に勤め、水稻や大豆部門の業務を主体に従事するとともに、アグリテック技術の中心的人材として活躍されています。また、最近では、地域におけるアグリテック技術の普及にも指導者的な役割を果たすなど、地域農業の“若きリーダー”として活躍が期待されています。

## 宮城県農業大学校 令和6年度入校生募集のご案内

宮城県農業大学校は農業の近代化と経済社会の発展に対応できる、高度な知識・技術を身につけた優れた農業経営者と農村地域の指導者を育成することを目的として、実践的教育を行う2年制の専修学校です。このたび、令和6年度入校生を下記のとおり募集しています。

### 1 募集人員 55人

(水田経営学部15人、園芸学部15人、畜産学部15人、アグリビジネス学部10人)

### 2 受験資格(一般入試)及び入学試験の概要

高等学校卒業者(令和6年3月卒業見込みの者を含む)、またはこれと同等以上の学力が

あると認められ、本県農業の振興に貢献する意欲がある者

### 3 願書等の請求方法

#### ①郵送の場合

〒981-1243 名取市高館川上字東金剛寺1番地  
宮城県農業大学校教務部学生班 宛  
(返信用切手210円を同封のこと。)

#### ②ホームページからのダウンロード

(<http://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/>)

### 4 問い合わせ先

宮城県農業大学校 教務部 学生班・教務班  
TEL 022-383-8138

試験区分	募集期間	試験日	試験科目
一般入学試験 (前期)	令和5年11月6日(月) ～11月17日(金)	令和5年12月1日(金)	○筆記試験 国語総合(古文・漢文除く)、数学I、小論文
一般入学試験 (後期)※	令和6年1月22日(月) ～令和6年2月5日(月)	令和6年2月20日(火)	○個人面接(15分程度)

※前期試験で募集定員を満たした学部は、後期試験を行わない場合があります。

## 普及センターでは**土壌分析**を随時受け付けています

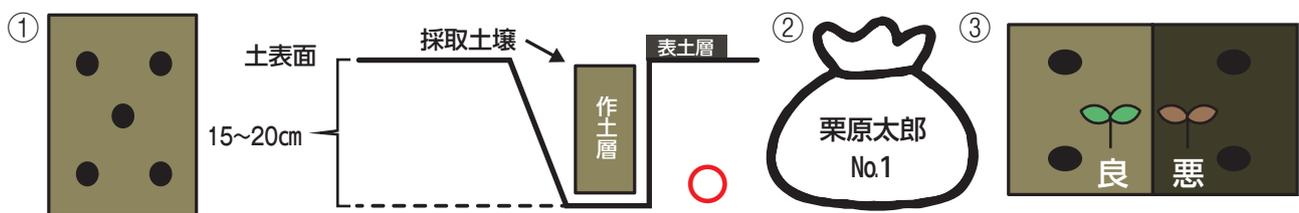
○栗原普及センターでは、作物の施肥設計のための土壌分析を受け付けています。

### 1 土壌診断をするメリット

- ①土壌養分の過不足が分かり、**作物の収量・品質が安定します!**
- ②土づくり資材等の適切な投入量が分かることで、**施肥コストを減らせる可能性があります!**  
⇒土壌診断は「**土の健康診断**」です。作ごとの診断をおすすめします。

### 2 土の採取方法について

- ①**1つのほ場から5カ所採取**したものをよく混合し、1点にまとめる（土壌中の成分はばらつきが大きいいため）。そこから、ご飯茶碗1杯分ぐらいを取り分ける。  
※表面の**表土層や植物残さ・ゴミを除き、作土層15~20cm**から土を採取する。
- ②分析結果をお返しするときに分類できるように、**土を入れた袋や容器には名前と番号を必ず記載する。**
- ③生育不良が見られるほ場では、**良いところと悪いところに分けて、それぞれ採取する。**



### 3 注意点など

- ①土の受付は普及センターまたはJAで行っています。結果は通常2週間ほどでお知らせいたします。
- ②施肥設計に活用する際は原則「**施肥する前**」に土を採取してください。
- ③土壌分析で分からないことがありましたら、普及センターまでお気軽にご相談下さい。

## 農作業安全確認運動展開中!

運動期間:令和5年9月1日~11月30日

宮城県では、令和5年農作業安全確認運動を展開中です。全国で農作業中の事故で亡くなる方が後を絶ちません。特に乗用トラクターの運転中の事故が多くなっています。

農作業中の事故を防ぐためにも以下の点に注意して、農作業を行いましょう。

- ①安全フレーム・キャブ付きトラクターの使用
- ②シートベルト・ヘルメットの着用
- ③危険箇所の確認・改善
- ④危険箇所の回避運転の励行



令和5年 農作業安全確認運動スローガン

**【徹底しよう!農作業機械の転落・転倒対策】**

